

令和3(2021)年度栃木県農業大学校評価シート

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	達成度	次年度の課題と改善方向
		評価指標	取組項目(○)と内容(・)		
2 入学生の確保	<p>(現状)</p> <p>○近年の入学生はH31が59名、R2が70名、R3が67名(農業生産学部 58名/70名、いちご学科 9名/10名)と定員80名を下回っている。</p> <p>○R3の受験者は定員と同数の80名(農業生産学部 67名/70名、いちご学科 13名/10名)であった。</p> <p>○R2の農業生産学部(旧本科)オープンキャンパスは、通常3回のところ、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、6月実施分が中止となったこともあり、2回で83名の参加にとどまった。</p> <p>○R2のいちご学科初めてのオープンキャンパスについては、学科の募集定員10名のところ、日曜日の実施2回で43名の参加があった。</p> <p>○農業関係以外の普通科系高校への訪問、HPへの年間100回を超える記事公開、農大農産物の販売や各種イベント会場としての活用等により、農大のPRを行っているが、R2は新型コロナウイルス感染症の感染対策として農大祭をはじめイベント等の中止、縮小が相次ぎ、生産物の販売等によるPRが十分に行えなかった。</p> <p>(課題)</p> <p>●高校生、また特にいちご学科に関しては大学生や社会人、農業者等に対して、農大の存在や特徴を認知してもらう必要がある。</p> <p>●就農を目指す応募者の増加を図り、入学後の就農へのサポートも適切に行い、就農率向上につなげる必要がある。</p> <p>●本県農業の特徴や目指す方向である、いちごや露地野菜をコース名等として表出するなど、対外的にわかりやすいコース設定を検討する必要がある。</p>	<p>全体応募者</p> <p>80名以上</p> <p>農業生産学部入学者</p> <p>70名以上</p> <p>農業経営学部(いちご学科)入学者</p> <p>10名以上</p> <p>オープンキャンパス全体参加者数</p> <p>160名以上</p>	<p>(1)オープンキャンパス等による農大の理解促進</p> <p>○効果的なオープンキャンパス等行事の開催</p> <p>・オープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染防止のため、規模縮小・時間短縮して実施するが、各回ごとにプログラム等を工夫し、6月～7月の間で3回実施し、より多くの参加者の確保に努める。</p> <p>・第1回は対象を県内農業高校の生徒・教員に限定し、各校の先輩農大生との対話の時間等を設け、参加者が農大に親近感を持てるよう工夫する。</p> <p>・第2回、第3回は参加者の利便性を考慮し、日曜日の開催とし、1日で農業生産学部と農業経営学部(いちご学科)双方のオープンキャンパスに参加が可能となるよう、プログラム等を工夫して実施する。</p> <p>・農大ホームページにオープンキャンパス開催に係る情報を適時適切に掲載する等、積極的な情報発信を行っていく。</p> <p>・ポスター・チラシ等を早期に作成のうえ、関係機関等に配付し、オープンキャンパス開催のPRに努める。</p> <p>・高校2年生を対象とした学校見学会を実施する。</p> <p>○オープンキャンパスの魅力向上</p> <p>・体験会を農業生産学部の第2回、第3回(一般高校向け)開催時に取り入れる。</p> <p>・学生課、教務部が連携して、参加者に受け入れやすいプログラムを作成する。</p>		<p>○効果的なオープンキャンパス等行事の開催</p>
				<p>(2)高校、JA等への農大PRの推進</p> <p>○県内高校生を対象とした農大PR</p> <p>・学校説明会や出前授業等に積極的に参加して、農大のPR等情報発信を図る。</p> <p>・農業関係高等学校長会等の機会を活用し、学校長等と意見交換や施設見学を通して、農大のPRを積極的に行う。</p> <p>○県内農業系以外の高校への戦略的アプローチ</p> <p>・学校説明会や出前授業等に積極的に参加して、農大のPR等情報発信を図る。</p> <p>・キャンパスガイドやオープンキャンパス等学校行事の情報をホームページやSNS等により積極的に行う。</p> <p>○県外高校対策強化</p> <p>・県外の入学実績のある高校等に対して、個別訪問や学校説明会への参加等により、入試ほか農大の情報発信を積極的に行い、進路指導に反映させてもらう。</p>	

令和3(2021)年度栃木県農業大学校評価シート

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	具体的方策		達成度	次年度の課題と改善方向		
				取組項目(○)と内容(・)				
	<p>●「いちご学科」について、農業振興事務所や農業関係団体等との連携の確立とともに、高校生、大学生、社会人等幅広い年代層への積極的な広報活動等により、学生の確保を図る必要がある。</p>			<p>○JAへの訪問 いちご学科で実施する産地調査等においてJAを訪問する際、学生自らが学科のPRを併せて行う。</p>		○JAへの訪問		
				<p>(3)農大の魅力発信の工夫</p> <p>○HPの充実 ・若者の目を引きつけるような見やすいHPとなるような内容に更新する。</p> <p>・県内外から多くの応募者を確保するため、農業生産学部、農業経営学部(いちご学科)、研修科の情報をきめ細やかに発信し、広くPRを図る。</p> <p>○各種広報誌等でのPR ・季刊誌における学部紹介や学生PR等の誌面充実に努めるほか、外部広報誌等への新規開拓を図る。</p> <p>・県広報課事業等を活用し、関係団体や金融機関等民間に学生募集のポスター掲示やリーフレット設置を依頼し、積極的な広報活動を行う。</p> <p>○マスメディアの活用 ・新聞社や放送局等にイベントや学生募集等の情報発信を積極的に行い、掲載や放送を通して農大のPRを図る。</p> <p>○その他広告物や学校生産物等によるPR ・農大をはじめ各公共施設、また事業やイベントにおいて、広告物や看板等の設置を検討し、可能なものから予算の確保も含め、順次実施していく。</p> <p>・民間施設や各種イベント主催者との協賛等、農大の生産物販売を通して学生と生産物等農大と学生募集のPRの機会拡充の検討を行い、協議が整ったものから積極的に実施していく。</p>			○HPの充実	
				<p>(4)入試方法の改善</p> <p>○出願期間等の改善 ・他の農業系大学のスケジュールも見ながら、学生募集の門戸が上げられるよう、最終の後期試験の出願期間を前期試験の合格発表後に設定する等、出願者をより多く確保できるよう努める。</p>				○各種広報誌等でのPR
			○出願期間等の改善					